

いきいきゼミナール

健康と医療

健康と医療についてゲストに語っていただくコーナーです

テーマ「発達障害」 ゲスト 医療法人社団 五稜会病院 中島 公博 理事長



—発達障害について教えてください。

分りづらく、厚労省によると、発達障害の人は疑いを含めて約700万人に上ります。

近年、発達障害という言葉をあちこちで耳にするようになりました。発達障害は、気持ちを読み取るのが困難な「自閉症スペクトラム障害(アスペルガー症候群など)」、読み書きなどが極端に苦手な「学習障害」、気が散りやすい「注意欠如多動性障害」などの総称です。外見からは

生まれつき、脳の働き方がほかの人と異なるために起こるもので、くわしいメカニズムは分かっていません。子育ての方法が悪いからではなく、また、心の病気とも違います。発達障害のある人は、家庭や学校や職場でさまざまな困難を抱えているケースが多いです。周囲か

らはやる気がないとか、いいかげんとか思われやすく、また、理解されにくく、誤解されやすく、孤立しやすく、“生きづらさ”を感じていることが多いです。また、発達障害はそれぞれの特性に合った支援や周囲の理解が得られないと、うつ病やパニック障害などを併発することもあります。発達障害に「ここから」という明確な境界線はありま

せん。診断を受けるほどではないが、発達障害の傾向があり、日常生活に困っている人も多と考えられます。

—診療について教えてください。

自身や家族、周囲の方の“生きづらさ”の原因が発達障害にあるのではないかと感じたら、ぜひ精神科など身近な専門機関に相談してほしいです。病名を恐れて診察を避けるのはマイナスです。例えば、子どもに発達障害がある場合、早い時期に適切な対応を開始することで、発達の偏り自体は変わらなくても、その人らしい成長を支え、不適応を

軽減できることがわかってきました。大人になってから障害に気付く人もいます。本人や家族の声に丁寧に耳を傾けながら、“生きづらさ”を少しでも減らす努力と工夫を重ねていきます。周囲の協力も得ながら、仕事や対人コミュニケーションで、どうすればうまくやっていけるかを考えていきます。

診療や対応の基本は「みんな違って、みんないい」です。発達障害の特徴をむしろ良さとして発揮している人も多です。周囲の配慮により円滑に仕事をこなす人もいれば、興味ある分野で才能を伸ばす人もいます。

病院訪問

医療法人社団 五稜会病院



予約専用のラウンジもあるので、初診の方でもリラックスして過ごせます。

思春期・青年期・壮年期の「こころと身体」を診療。入院中心の精神医療から、より効果的な外来中心の地域医療の推進を目指しています。併設する「札幌CBT&EAPセンター」では企業のメンタルヘルス対策を支援しています。

住所/札幌市北区篠路9条6丁目2-3
電話番号/011-771-5660 (代表)・011-773-9896 (医療相談室)
診察受付/月~土曜 8:45~12:00 13:45~15:45 ※土曜は第2・4のみ
休診日/第1・3・5土曜、日曜・祝日
院長/千丈 雅徳 <http://www.goryokai.com>